

剣風



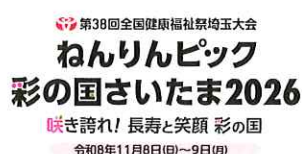
事務局 〒330-0074
さいたま市浦和区北浦和5-6-5
浦和合同庁舎 4 階
Tel (048)834-8869



埼玉剣連 HP ▶

第26号 令和 8 (2026) 年 9 月 1 日発行 (題字 元会長 野澤 治雄)

ねんりんピック彩の国さいたま 2026 剣道交流大会 監督選手紹介



開催場所 行田グリーンアリーナ

開催日程 令和 8 年 11 月 8 日 (日曜日) 予選リーグ 10 時 20 分開始予定

令和 8 年 11 月 9 日 (月曜日) 決勝トーナメント 9 時 30 分開始予定

埼玉県、さいたま市の代表選手団を紹介します。沢山の応援をお願いします。
入場無料。

	埼玉県A		埼玉県B		埼玉県C	
監督	渡辺 秀男	(東松山)	狩野 清志	(熊谷)	甲村 龍彦	(北本)
選手	徳村 忠	(川口)	加藤 康幸	(東松山)	内野 保	(所沢)
	上條 浩一	(上尾)	篠崎 仁志	(東松山)	小川 明巳	(川口)
	米山 和仁	(熊谷)	柿沼 日出美	(熊谷)	町田 進	(秩父)
	小島 光正	(秩父)	設楽 浩	(秩父)	手島 隆治	(熊谷)
	中山 良彦	(熊谷)	立山 健治	(朝霞)	大塚 昌宏	(行田)
	森田 英仁	(加須)	川上 満	(杉戸)	爲谷 昇	(久喜)
	今井 美行	(秩父)	豊島 和	(所沢)		
	さいたま市A		さいたま市B			
監督	岡田 昇	(浦和)	吉岡 和男	(大宮)		
選手	森田 哲也	(大宮)	岩本 康寿	(浦和)		
	大野 泰	(浦和)	堀田 明良	(浦和)		
	横田 博	(浦和)	弦巻 裕之	(大宮)		
	関口 啓一	(浦和)	筑紫 義明	(浦和)		
	塚越 卓	(浦和)	大江原 博臣	(大宮)		
	澤野 富夫	(浦和)				



埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」

「大会に向けての抱負」

総監督 警察 藤田 利美

ねんりんピック彩の国さいたま2026剣道交流大会が、11月8日及び9日の2日間、行田市グリーンアリーナで開催されることに伴い、連盟としましても例年以上に強化を図っているところでございます。

本大会には、埼玉県代表として、3チームが出場しますが、優勝を目指し本年3月に開催されました予選会以降、監督3名と強化選手20名の計23名で練習会や月例稽古等で強化をしているところです。

また、チーム編成も決定し強化選手の先生方も練習会等を重ねるごとに技術面、気力面が充実してきているとともに、各チーム監督を中心にチームワークも醸成され良い状態となってきました。

つきましては、各チーム優勝を目標に頑張る所存でございますので、何卒多くの方々にご来場とご声援をお願い申し上げ、総監督としての抱負とさせていただきます。

私の剣道修行（師の教え）

剣道教士八段 金田 孝行



私は、小学校四年生の時に剣道を初め、中学生の地方大会で、鹿児島商工高等学校矢崎時雄先生の目にとまったことから、強豪高校での本格的な剣道修行が始まりました。

先生の教えは、試合に臨む以上は、「必ず優勝～2位以下は最下位と同じ」「勝てば官軍、負ければ賊軍」が口癖で、常に強気な姿勢を崩さず、厳しい勝負の世界の現実を説かれていました。

恩師である矢崎時雄先生は、すべての学生の就職、進学の面倒を見ていただき、厳しいだけでなく、社会人として自立させるまでが自らの仕事であるという強い教育信念を持たれていました。

その中でも、私の中に深く刻まれているのは、「時間」「人間」「空間」といった、三間を正すということです。

- ・時間を守る。（大切に）先生自らも、約束どおり二時間以上の稽古はさせなかった。
- ・挨拶をする。大きな声で、先生、先輩、親に対して、しっかりとした挨拶をする。
- ・身の回りを綺麗（生活態度を正す）にする。掃除はもちろんのこと、金銭出納簿と剣道日誌をつけさせるなど、人間的な成長を促してくださいました。

大学は、中央大学へ進むことになりました。

師範 中倉 清先生 剣道、居合道範士九段

昭和の武蔵と謳われ、紹介するまでもありませんが、先生とのエピソードをお話させていただきます。

当時、73・4歳かと思います。鹿児島商工高校の矢崎時雄先生との繋がりもあり、先生には積極的に稽古もお願いしました。すると、先生の右足でなく左足が前に出たと思ったら、出小手に斬られ、小手を防ぐと面を打たれ、次第に隅に追いやられ、前後左右動けず居着いたところに片手突き、この突きが不思議なことに喉の奥に鈍痛を伴うものでした。また、稽古では、中倉先生の半面を何回もいただきました。右の鼓膜は2回破れました。後にも先にも破れたのは中倉先生との稽古だけ。今となっては、もっと話を聞いたり、稽古をお願いしていたらと悔やまれます。贅沢な学生時代でした。

監督 津村耕作先生 剣道教士八段

全日本学生剣道大会で7回優勝に導く名将とされ、あの赤胴鈴之助のモデルだったとの話しも聞いております。

先生は、「文武芸道」という独自の理念を持っておられました。学業（文）と剣道（武）だけでなく、人間としてのコミュニケーション力を養うために「芸」を重んじてました。

絶対服従の時代に、学生に問いかけ、考えさせるスタイル、全部員で勝つ、誰一人として置いてきぼりにしない、この考えに先生のために日本一になると誓ったものです。

当時は、津村マジックと言われ、有名選手がそんなにいないにもかかわらず、四年時に、全日本学生剣道優勝大会で優勝したのは、こういった背景があったからだと思います。

埼玉県警察に入ってから、特練の現役とコーチで16年間、監督6年間と人生の3分の1を剣道修行に費やすことが出来ました。特練に入ったときは、根岸一雄先生が監督をされており、先生の話されていた「迷ったら、正攻法」は、人生のあらゆる場面で活かされています。

現役の際は、切り返し、掛かり稽古、打ち込み各20分、後半指導稽古が主な練習メニューでした。また、埼玉県剣道連盟の夜稽古のときは、一日に3回みっちり鍛えていただきました。

当時の夜稽古で橋崎正彦先生をお願いしたときは、面を打っていくと、突き上げられそうで、小手面しか打てなかったのを思い出します。

現役を38歳で終わり、指導者の道に入らせていただきましたが、最近になって指導している場面が、実は指導されている場面だったと気付かされております。

2年前に退官してからは、埼玉田島剣友会を中心に活動させていただいておりますが、こちらは、大学時代の恩師である津村耕作先生が始められた剣友会で、50年以上の歴史があります。

今、まさに指導者として修行の途中であります。10歳で始めた剣道を50年以上も続けるとは思っても見ませんでした。剣道の楽しさを伝えるために、竹刀が持てなくなるまで修行を続けるつもりです。

ヨーロッパ杖道選手権大会 にて

杖道部 上田 花代子

令和7年9月26日（金）から28日（日）までの3日間、ポーランド南西部に位置するジェロナ・グラにおいて、第23回ヨーロッパ杖道選手権大会ならびに講習会・審査会が開催されました。私は全日本剣道連盟の派遣団の一員として参加し、ヨーロッパ各国の選手や指導者の熱意、そして技量の高まりを肌で感じる貴重な機会となりました。



会場となったジェロナ・グラ大学スポーツホールは1125㎡の広さを誇り、三つの試合場を設けても十分な余裕がある立派な施設でした。参加者は22か国207名（男性147名・女性60名）に及び、国際大会としての規模と活気を強く感じました。講習会では各国の選手が真剣に学び合い、試合では国を代表する選手たちが団結して戦う姿が印象的でした。

日本の全日本杖道大会では個人戦形式が中心ですが、ヨーロッパ大会では団体戦も実施されており、国を挙げての応援や一体感が生まれ、会場全体が大きな盛り上がり包まれていました。埼玉県杖道大会でも個人戦・団体戦を実施していますが、ヨーロッパの団体戦は国際色豊かで、各国の特色が表れる点が非常に興味深いものでした。

私は約20年前からヨーロッパの杖友の招きにより指導に携わってきましたが、今回の大会では特に三段以下の選手の技量向上が顕著で、日頃の講習会の積み重ねが確実に成果として表れていることを強く実感しました。ヨーロッパでは国を越えて講習会が頻繁に開催されており、互いに学び合う文化が根付いていることが、技術向上の大きな要因となっているように感じます。

審査会は初段から七段まで実施され、初段～五段の合格率は90%を超える高い水準でした。さらに六段2名、七段1名の新たな高段者が誕生し、ヨーロッパにおける杖道の裾野の広がりや質の向上を改めて確認する結果となりました。国内外を問わず、正しい稽古と継続的な研鑽が確実に実を結ぶことを再認識いたしました。

また、大会運営では電算システムが大変充実しており、各試合場に設置された大型モニターには選手の顔写真や試合結果がリアルタイムで表示され、観客にも分かりやすく、会場の雰囲気の大いに盛り上げていました。これらのシステムは各国のエンジニアが長年協力して構築したものであり、ヨーロッパの剣道界の組織力と技術力の高さを感じさせるものでした。

最後に、ヨーロッパでは剣道・居合道・杖道の選手権大会が毎年持ち回りで開催されているほか、剣道形の大会も実施されています。こうした多様な取り組みが、武道文化の継承と発展に大きく寄与していることを付記し、今回の海外杖道事情の報告といたします。



生涯剣道人を訪ねて

寄居剣道連盟 雨宮 正一



Q1 いつ頃、何歳から剣道を始められましたか

私は今年の4月で満88歳になりました。剣道は鉢形中学を卒業し熊谷農業高校に入学した1年生の時に始めましたので15歳からになります。

Q2 剣道を始めたきっかけは何ですか

中学時代は、農家で貧しかったせいもありますが、やせっぽちで体力に自信がありませんでした。もう死んでもいいやと思っていたところ、剣道場から激しく竹刀の打ち合う音が聞こえてきました。これなら体力が付くかなと思い意を決して剣道場を見に行き入部しました。高校2年の時に警察OBの梅澤照義先生が剣道の指導に見えるようになりました。毎日の猛稽古で力を付け県大会でベスト8になりました。

また、長距離走も1年の時に学年16位になり自信が付きました。3年時には剣道の猛稽古もあり学年1位になり駅伝の代表に選出されました。

Q3 剣道を長年続けられている秘訣は何ですか

体が弱く何時も死ぬことばかり考えていたので、剣道を通じて不動心を養えたことだと思います。また何事にも夢中になる性格で、長距離走と共に高校卒業後も地元警察署の道場で稽古を続けました。

Q4 稽古は週何日くらいされていますか

今は川本トレーニングセンターで週1回、アタゴ記念体育館で月1回、埼玉県高齢剣友会の月1回の定例稽古に参加しています。また剣道修行のためと思い①自宅近くの愛宕山の除草②毎朝ストレッチ30分素振り10本③鉢形城公園史跡手入れ管理⑤家庭菜園などを行っています。

Q5 稽古で気を付けていることは何ですか

とにかく怪我をしないように無理のない稽古を心がけています。埼玉県高齢剣友会の稽古も面を付けて何人かにお願いし。その後は元立ちの先生方や8段の先生の立ち合いの見取り稽古です。

Q6 今まで剣道に関わった中でよい思い出は何ですか

私は埼玉県高齢剣友会第3代会長を勤めましたが、会長になった途端の平成26年第36回全日本高齢者武道大会団体戦で準優勝したことが一番の思い出です。また、剣道と両輪で続けてきた長距離走で飯能奥武蔵駅伝や埼玉駅伝に寄居陸協の一員として活躍できたことです。

Q7 好きな言葉（座右の銘）好きな食べ物は何ですか

「中庸」「人は変わらぬ我を変えよ」「なるようになるさ」（良寛）好きな人物、「島津義弘」「真田幸村」。好きな食べ物は以前は「そば」。今は食欲もなくなりました。

Q8 その他

農家の長男として高校卒業後は家業の農業と養豚に専念してきました。全国品評会ヨークシャ種未經産の部では日本一を取りましたが、34歳で一念発起し分家、タイル工になりました。剣道で培った集中力が功を奏し一級技能士を取得、タイル組合の支部長にも任命されました。消防団団長や剣道連盟事務局長、寄居警察嘱託教師など地元剣道や地域発展の為に尽くしてきたつもりです。希望を失った人生が剣道によって生きながらえることができました。感謝してもしきれません。これからも微力ではありますが利他の気持ちで尽くしたいと思っています。

ありがとうございました。

範士受称にあたって

浦和剣道連盟 神山 芳男

令和8年5月の剣道称号審査において、剣道範士の称号を受領させていただきました。これも偏に、栗原会長はじめ埼玉県剣道連盟の諸先生、先輩及び剣友の皆様のご支援の賜物と深く感謝し厚く御礼申し上げます。

範士合格の知らせを話聞いたのは、自宅で部屋の掃除をしている時でした、ある先生から、「範士合格おめでとうございます」の電話を頂戴し、半信半疑で全日本剣道連盟のホームページを見て、「え、私が合格している」と初めて本当に合格したのだと心臓がドキドキするのを感じました。

この年齢で範士の称号を頂き身に余る光栄と感謝おります、改めて範士称号の付与基準を見るとその重さを感じ身が引き締められました。

今思えば、継続は力なりと思います。小学5年生で初めて竹刀を持ちなんとなく稽古を続けておりましたが、警察で剣道特錬員として基本をしっかり見直しながら埼玉県剣道連盟の稽古会、各地の稽古会で多くの先生方、諸先輩及び剣友のご指導を頂き、ひたすら稽古に励んだことが今の自分を育ててくれたと感じております。

これからは、少年剣士や地域の剣道に貢献し範士の称号に恥じないように、粒粒辛苦の気持ちをもって真剣に修業に精進して行きたいと思います。



範士受称 感謝申し上げます

杖道部 上田 花代子



このたび、埼玉県剣道連盟のご推薦を賜り、公益財団法人全日本剣道連盟より杖道範士の称号を拝受いたしました。身に余る光栄に、身の引き締まる思いでございます。

この栄誉を賜りましたのは、埼玉県剣道連盟の先生方より多大なるご指導と、杖道に対する深いご理解をいただき、平成十三年に杖道部を下部団体としてお認めいただいたことに始まります。以来、多くの会員の皆様に指導の機会をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。

十二歳で剣道を始め、十八歳の後半より杖道を学び始めました。二道とも週二回の稽古を続ける日々を過ごし、杖道の師から「杖道は剣道の近道だぞ」と教えをいただきましたが、このたびは「先生、私には剣道が杖道の近道となりました」と、亡き師の墓前に報告してまいりました。

竹刀を握る手の内、剣道形で木刀を握る手の内、姿勢、発声、いずれも剣道の稽古で養ったものが、私の基礎を築いてくれました。剣道に深く感謝致しております。

また、杖道部の杖友の皆様にも心より御礼申し上げます。今後は称号の重責を胸に、なお一層精進し、微力ながら杖道の普及・発展に尽力してまいります。

どうぞ倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、改めまして心より深く感謝申し上げます。

八段昇段にあたって

北本剣道連盟 渡會 秀一



この度、5月1日、京都にて14回目の挑戦で剣道八段に合格させていただきました。ご指導いただいた先生方、埼玉県剣道連盟、道場、剣友、家族の支えに深く感謝申し上げます。

私は転勤族の会社員として、剣道一筋ではない時期もありましたが、子供たちが剣道を始めたことを機に再び竹刀を握り、50歳で七段、そして「60歳で八段を」と決意して挑戦を続けました。

振り返ると、二次審査で敗れた原因は技術以上に「心の動き」でした。初太刀で有効打が出ると、「いける」という欲が生まれ、慎重になりすぎたり、逆に力んでしまったりする。相手を観察し過ぎて無心さを失い、一本を求める気持ちが強くなるほど、技は冴えを失いました。面を打ちながら途中で迷い、強引になり、あるいは考え過ぎて攻めが止まる。まさに、自分の心に敗れていたのだと思います。

10回目頃からは「力みを取る」ことを意識しましたが、今度は握りが弱くなり竹刀を落とす失敗も経験しました。小手先で整えようとするほど、本来の気魄が薄れていたのだと思います。

そして14回目、審査前日に師である 範士 田中宏明 先生（解脱錬心館館長）より「先攻め・全身全霊」とご指導いただきました。結果を求める心や小手先の駆け引きを捨て、「無心」で立ち会う覚悟を決めました。ようやく、自分の剣道で審査に臨めた気がいたします。

八段合格は到達点ではなく、新たな修行の出発点です。今後も基本を忘れず、謙虚に学び続けてまいります。

剣道四・五段審査会（寸評）

審査委員長 大澤 規男

大宮武道館において7月4日（土）剣道四・五段審査会が実施されました。今回の合格率は、四段が45.8%、五段が42.4%と高い合格率となりました。ただ、再審者が各段位で五名出たことは少々残念でなりません。審査を拝見し感じたところを申し上げます。剣道段位級位審査にはそれぞれの基準があります。四、五段の基準のひとつに、四段は、「気位と迫力のある攻め」五段は「五段としての風格」とあります。気位とは、鍛錬を積み重ねたことによって得られた自信から生まれる威力、威風で、これが自然と感じられるものでないと基準に達しません。それには、礼法から三步進み蹲踞まで、お相手を尊敬する気持ち及び自己の心を丹田にずっと落としながら覚悟を決めて座る。立ち上がったら一眼二足三胆四力の教えの通り、一眼（洞察力）二足（攻め）三胆（覚悟）四力（打ち切る）の順で時間内を集中することが大切です。審査を拝見して感じる場所は、攻めからの打突です。ただ前に出ることが攻め、間合いを詰めれば攻めと思っている受審者が見受けられます。攻めとは、相手が脅威を感じるように仕掛けることです。三殺法では、「気を殺す、剣を殺す、技を殺す」とあるように、相手の心を動かすものです。先の気位で打つぞ、突くぞという気が充実して、足で攻め、相手の気が十分であれば技を出さない（溜める）、相手が技を出して来たら出ばな、または応じ技で打ち切ることが重要です。普段の稽古で先生方に、「一人で、または、自分勝手に技を出していますよ」と言われた方もおられると思います。これなどは、一眼の洞察力（相手の心を探る）を無視し、自分が打突する準備ができた、または、中結まで間合いに入ったから打突するという稽古をされている方です。剣道は、初段から八段までありますが、技から心の剣道に段階を追って修行していきます。四、五段はまさに技から心の剣道に入らないと六段、七段、八段へ繋げていけません。先生方の益々のご精進をご期待申し上げます。

令和8年大会記録(1月～7月)

—全国大会—

○第74回全日本都道府県対抗剣道優勝大会 (R 8.4.29 和歌山ビッグホール)

- 1 回戦 長崎県 2-1
2 回戦 長野県 5-1
3 回戦 兵庫県 1-2

○全日本高齢者武道大会 (R 8.6.8 日本武道館)

寿A 2位 福田 健治
寿B 2位 渡辺 秀男
B組 2位 関口 啓一

○第18回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会 (R 8.7.12 日本武道館)

- 2 回戦 新潟県 2-2 (本数勝)
3 回戦 広島県 5-1
4 回戦 熊本県 2-2 (本数負)
優秀選手賞 中嶋 カオル(川口)

—関東大会—

○第72回関東高等学校剣道大会 (R 8.6.12～14 栃木県宇都宮市)

男子個人 3位 酒井 新太(本庄第一)
女子個人 3位 佐々木瑠真(星野)
男子団体 3位 本庄第一
女子団体 3位 星野

—全国大会予選—

○第74回全日本都道府県対抗剣道優勝大会予選会 (R 8.2.23)

- 先鋒 北脇 大翔(山村学園) 高体連推薦
次鋒 井上 倭(西入間)
五将 泉 英太(北本)
中堅 泉 和毅(高校)
三将 伊藤 勇太(警察)
副将 橋本 桂一(東松山)
大将 井口 清(飯能)

○第38回全国健康福祉剣道交流大会県予選会 (R 8.3.1)

- ・60歳以上65歳未満の部
加藤 康幸(東松山) 上條 浩一(上尾)
徳村 忠(警察) 内野 保(所沢)
・65歳以上70歳未満の部
町田 進(秩父) 設楽 浩(高校)
今井 美行(秩父) 豊島 和(所沢)
・70歳以上の部
森田 英仁(加須) 立山 健治(朝霞)
川上 満(杉戸) 爲谷 昇(久喜)

○第18回全日本都道府県女子剣道大会予選会 (R 8.3.1)

- 先鋒 佐々木瑠真(星野) 高体連推薦
次鋒 中嶋カオル(川口)
五将 中村 日南(東松山)
中堅 志藤 綾子(東松山)
三将 渡會 愛梨(高校)
副将 荒井 貴子(久喜)
大将 村山 千夏(警察)

○第67回全国教職員剣道優勝大会予選会 (リプロ武道館)

- (R 8.5.16)
義務教育の部 翠川 洋平(川口西中)
高大教委の部 志良堂有将(浦和学院高)

- 副将の部 藤林 洋平(志木高)
大将の部 船水 学(平成国際大)
女子の部 井上夢希乃(さいたま桜高等学校)

- 男子個人戦 翠川 洋平(川口西中)
団体戦出場 泉 和毅(川口北高)

○第79回国民スポーツ大会成年の部予選会(大宮武道館) (R 8.5.23)

- 男子 先鋒 田畑 政樹(警察)
次鋒 橋本 慎治(警察)
中堅 平野伸一郎(警察)
副将 橋本 桂一(東松山)
大将 菊地 博之(警察)
女子 先鋒 小川梨々香(東松山)
中堅 志藤 綾子(東松山)
大将 村山 千夏(警察)

○定通剣道高校総体兼全国大会予選 (R 8.5.17)

- 男子 1位 川合 陽彩(大川学園)
2位 奥泉 鳳馨(戸田翔陽)
3位 宮崎 由毅(大宮中央)
3位 黒沢真己人(大川学園)
女子 1位 奥 香恵(大宮中央)
2位 渡部 優奈(大川学園)
3位 小池 美桜(戸田翔陽)

○全国高等学校剣道大会県予選会 (男女個人:1・2位が全国大会出場) (R 8.6.19)

- 男子個人
1位 酒井 新太(本庄第一)
2位 長岡 律生(本庄第一)
3位 鈴木 陽(城北埼玉)
3位 高梨 裕生(松山)
・女子個人
1位 樋口優衣奈(星野)
2位 佐々木瑠真(星野)
3位 江田 彩春(星野)
3位 小森谷伽朋(淑徳与野)

○全国高等学校剣道大会県予選会 (男子団体:1位が全国大会出場) (R 8.6.23)

- 1位 本庄第一 2位 山村学園
3位 川口市立 3位 城北埼玉
○全国高等学校剣道大会県予選会
(女子団体:1位が全国大会出場)
(R 8.6.23)
1位 星野 2位 山村学園
3位 深谷第一 3位 春日部女子

○国スポ少年男女 最終選考会(リプロ武道館) (R 8.6.27)

- 男子 山崎 貫太(山村学園)
長岡 律生(本庄第一)
鈴木 陽(城北埼玉)
北脇 大翔(山村学園)
酒井 新太(本庄第一)
女子 佐々木瑠真(星野)
北村 美緑(星野)
浦野 葵衣(星野)
江田 彩春(星野)
樋口優衣奈(星野)

○全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会予選会(5名が本大会出場) (R 8.7.20)

- 1位 千葉 政臣(川口)
2位 録澤 奏佑(北本)
3位 今瀧 立葵(越谷)
3位 宮崎 陽也(狭山)
5位 小林 謙吾(北本)

○第74回 埼玉県中学校総合体育大会兼全 国・関東大会予選 (R 8.7.22・23)

- ・男子団体
1位 北本 2位 城北埼玉
3位 大沼 3位 瀬崎
5位 妻沼東 5位 朝霞第二

・女子団体

- 1位 朝霞第三 2位 本庄第一
3位 大沼 3位 北本
5位 皆野 5位 朝霞第一

・男子個人

- 1位 石井 明(北本)
2位 城戸 蒼大(城北埼玉)
3位 福島 誓(初雁)
3位 渡邊 碧(安行)

・女子個人

- 1位 飯塚 美結(朝霞第三)
2位 二上 葉奈(朝霞第三)
3位 今瀧夕輝乃(大沼)
3位 飯岡 沙月(朝霞第三)

—関東大会予選—

○関東高校剣道大会予選会 男女個人 (R 8.5.1)

- 男子 1位 関 日向(川口市立)
2位 酒井 新太(本庄第一)
3位 和藤慎之介(川越)
4位 高田 一仁(久喜北陽)
女子 1位 佐々木瑠真(星野)
2位 浦野 葵衣(星野)
3位 淡路ひかり(昌平)
4位 小林 希寧(春日部女子)

○関東高校剣道大会予選会 男子団体 (R 8.5.9)

- 1位 山村学園 2位 本庄第一
3位 城北埼玉 4位 立教新座
5位 松山 5位 深谷第一
5位 川口市立

○関東高校剣道大会予選会 女子団体 (R 8.5.10)

- 1位 星野 2位 本庄第一
3位 深谷第一 3位 川口市立
5位 淑徳与野 5位 昌平
5位 山村学園

—県内大会—

○第35回埼玉剣道高齢者剣道大会(リプロ武道館) (R 8.6.15)

- ・75歳以上の部
1位 立山 健治(朝霞)
2位 渡辺 秀男(東松山)
3位 久保 和秀(西入間)
3位 大河原徳雄(狭山)

・70歳以上～75歳未満の部

- 1位 中山 良彦(熊谷)
2位 狩野 清志(熊谷)
3位 兵庫 正彦(東入間)
3位 荒川 良一(入間)

・65歳以上～70歳未満の部

- 1位 赤岩 伸洋(本庄)
2位 高橋 正陽(久喜)
3位 上村紳一郎(朝霞)
3位 佐々木 幸(羽生)

・60歳以上～65歳未満の部

- 1位 山下 克巳(東松山)
2位 横田 博(浦和)
3位 小川 明巳(川口)
3位 森川 正浩(久喜)

○第14回 埼玉県杖道大会(リプロ武道館) (R 8.7.20)

- 初段以下 1位 鈴木 蘭(浦和杖道会)
2段 1位 横森 紗名(浦和杖道会)
3段 1位 内野 寛俊(浦和杖道会)
4段 1位 飯田 篤功(彩杖会)
5段 1位 今枝 大輔(浦和杖道会)
団体戦 1位 凜清会

称号・段位取得者一覧 (令和8年2月～7月)

称号

範士

神山 芳男(浦和)

範士

後 雄士(高校)

佐々木峻輔(川越)

竹内 佑樹(高校)

浅田 貴司(川越)

清藤 岳人(警察)

木村 健(朝霞)

菅原 勉(行田)

澁江やよい(越谷)

石灰 克之(浦和)

野本 直基(所沢)

河端 宏司(吉川)

末武 秀尉(川越)

金子 宏(北本)

澤島 賢一(春日部)

清水 修(入間)

横田 博(浦和)

甲斐 靖幸(警察)

内藤 貴文(所沢)

茂木 旅(蔵)

丹治喜代美(北本)

高木由美子(高校)

山倉 真二(川口)

島田 高志(鴻巣)

市村 政広(狭山)

三宅 裕典(川越)

澁川 晴俊(鴻巣)

筒井 修二(所沢)

定森 茂(大宮)

範士

永野 雅大(高校)

齋藤 一将(八潮)

黒澤 大輔(熊谷)

上野 翔大(高校)

鈴木 克也(八潮)

弦巻 秀拓(警察)

小島 武文(高校)

堀込 大海(鴻巣)

栗田佳代子(警察)

大澤浩一郎(警察)

川田 武(朝霞)

渡邊 正浩(大宮)

東海林芳典(朝霞)

土屋 明子(所沢)

石井 勝隆(朝霞)

塩野祐希子(上尾)

川端 康子(草加)

福浦 一貴(警察)

岩見 親宏(行田)

酒井 茂雄(上尾)

江良美佐代(越谷)

田端 利弘(大宮)

茂木 宏行(上尾)

森 正頭(鴻巣)

安藤 和弘(幸手)

赤塚 浩二(朝霞)

佐藤 武彦(熊谷)

真崎 秀彦(春日部)

渡辺 半(久喜)

高田マリ子(越谷)

仁宮 得市(東松山)

範士

上田 花代子

範士

野口 京子

範士

山田 優希

範士

杉崎 利春

範士

石山 邦良(東松山)

井上 雅陽(杉戸)

池 祐一(浦和)

島村 孝一(戸田)

土屋 充(春日部)

細淵 克巳(入間)

谷生 誠人(浦和)

武藤 晴彦(越谷)

大橋 一男(越谷)

柳井 正寿(越谷)

深澤 良子(所沢)

鈴木 啓馬(寄居)

土本 欣之(所沢)

大瀧 徹(久喜)

佐々木 幸(羽生)

高山 良一(深谷)

相馬 功(東入間)

渡辺 雄二(上尾)

渡辺 文男(朝霞)

市川スズ子(飯能)

小澤征四郎(久喜)

範士

北井 真人(上尾)

小林 一平(高校)

北村 惇(浦和)

高橋 遼(大宮)

岩崎 将人(警察)

黒木 敏之(所沢)

遠山 誠(久喜)

狩野 裕一(大宮)

土佐林 剛(戸田)

村松 裕(浦和)

藤原 廣行(狭山)

池田竜太郎(幸手)

加藤 正行(熊谷)

範士

本多 慎吾(草加)

小拔 達哉(八潮)

大林 実(越谷)

谷口 恵子(越谷)

中村 典子(越谷)

鶴岡 洋一(越谷)

山田 直人(吉川)

近藤 直樹(春日部)

尾崎万里子(春日部)

大園志保子(杉戸)

田窪 青也(所沢)

津田 朋彰(東入間)

範士

笠原 堯杜(狭山)

安部 徳晃(川越)

門間 光児(川越)

野田 薫(川越)

柴田 博行(川口)

増田 弘子(川口)

土屋 信平(戸田)

STEVEN HARVEY(朝霞)

山田ひとみ(朝霞)

山上 大成(浦和)

中川 和子(浦和)

吉際 正実(大宮)

奈須川大輝(大宮)

小川 大翔(鴻巣)

菊地 衿花(熊谷)

安住 幸恵(警察)

大沢 龍樹(警察)

猪熊 琉河(警察)

藤田 知貴(警察)

大門 健身(高校)

範士

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦(東入間)

正彦

編集後記

剣風26号に、剣道、杖道の範士号拝受を筆頭にして剣道八段合格等会員の皆様のご活躍や足跡を記載できる事は喜ばしい事です。剣風が生涯にわたり各道を追求される会員の皆様に少しでもお役に立てればと思います。本号では新たな試みとして、7月の四・五段審査の寸評を寄稿していただきました。四・五段を目指す方々の日々の稽古を見直す足がかりになれば幸いです。(大河原直弘)